

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	政治経済
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『高校政治・経済』（実教出版）/『2017 新政治・経済資料 三訂版』（実教出版）/『高校政治・経済演習ノート』（実教出版）					
担当教員	市嶋 聡之					
到達目標						
(1)政治や経済と環境問題の関係が理解できること。 (2)国際的な政治や経済の動向およびその背景に深い興味・関心を抱けること。 (3)時事的な問題に対して自分なりの見解を持とうと努められること。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		政治や経済と環境問題の関係が十分に理解できる。	政治や経済と環境問題の関係がある程度理解できる。		政治や経済と環境問題の関係がほとんど理解できない。	
評価項目2		国際的な政治や経済の動向およびその背景に極めて深い興味・関心を抱ける。	国際的な政治や経済の動向およびその背景にある程度深い興味・関心を抱ける。		国際的な政治や経済の動向およびその背景に興味・関心をほとんど抱けない。	
評価項目3		時事的な問題に対して自分なりの見解を持とうと大いに努められる。	時事的な問題に対して自分なりの見解を持とうとある程度努められる。		時事的な問題に対して自分なりの見解を持とうと努めることがほとんどできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代社会における最も重要な活動の一つである政治とすべての人間活動の土台となる経済に関する基礎的な知識の修得を第一の目標とする。さらに、社会の急激な変動の中にあっても、その本質を把握しようとする洞察力・判断力の養成も目指す。					
授業の進め方・方法	概ね前期を政治編、後期を経済編とし、教科書の項目立てに準拠して授業を行う。教科書と資料集を中心的な教材とするが、具体的な事例や発展的内容に関してはプリントなどで適宜補足する。なお、前期・後期に各1週ずつ、時事問題を主題とする授業を行う。					
注意点	課題等が提示された場合には必ずクリアーすること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	民主政治の基本原則（1）		政治と法について理解できる。	
		2週	民主政治の基本原則（2）		民主政治の原理と発展について理解できる。	
		3週	民主政治の基本原則（3）		世界の政治体制について理解できる。	
		4週	民主政治の基本原則（4）		民主政治の混迷と課題について理解できる。	
		5週	日本国憲法の基本的性格（1）		日本国憲法の成立について理解できる。	
		6週	日本国憲法の基本的性格（2）		平和主義について理解できる。	
		7週	日本国憲法の基本的性格（3）		基本的人権の保障について理解できる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	日本の政治機構（1）		立法について理解できる。	
		10週	日本の政治機構（2）		行政について理解できる。	
		11週	日本の政治機構（3）		司法、地方自治について理解できる。	
		12週	現代日本の政治（1）		戦後政治の歩みについて理解できる。	
		13週	現代日本の政治（2）		選挙制度と政党、政治参加と世論について理解できる。	
		14週	現代の国際政治		国際政治概論について理解できる。	
		15週	学習のまとめ		前期の学習内容について理解できる。	
		16週	前期期末試験			
後期	3rdQ	1週	経済社会の変容（1）		資本主義経済の発展について理解できる。	
		2週	経済社会の変容（2）		グローバル化と現代資本主義経済について理解できる。	
		3週	現代経済のしくみ（1）		市場機構、現代の企業について理解できる。	
		4週	現代経済のしくみ（2）		国民所得と経済成長、金融のしくみについて理解できる。	
		5週	現代経済のしくみ（3）		財政のしくみについて理解できる。	
		6週	現代経済と福祉の向上（1）		日本経済の歩み、日本の中小企業と農業について理解できる。	
		7週	現代経済と福祉の向上（2）		国民の暮らし、環境保全と公害の防止について理解できる。	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	現代経済と福祉の向上（3）		労使関係と労働条件の改善について理解できる。	
		10週	現代経済と福祉の向上（4）		社会保障の役割について理解できる。	
		11週	世界経済と日本（1）		商品・資本の流れと国際収支について理解できる。	
		12週	世界経済と日本（2）		国際経済体制の変化について理解できる。	
		13週	世界経済と日本（3）		金融のグローバル化と世界金融危機について理解できる。	

		14週	世界経済と日本（４）		地域経済統合と新興国の台頭、経済協力と人間開発の課題について理解できる。		
		15週	学習のまとめ		1年間の学習内容について理解できる。		
		16週	後期期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0